

保健便り(特別号)

令和4年9月16日(金)

福岡県立筑豊高等学校・保健室

イノシシ・猿・鹿に気をつけて

季節も夏から秋へ変わろうとしています。

それは人間だけではなく動物、特に野生動物達は敏感に感じているようです。

山から下りてきて、町に食料調達にきている姿もあるようです。

直方市の目撃情報などもあり、毎年この時期はイノシシ・猿・鹿の情報が多くあります。(本校でも、毎年イノシシの目撃情報が多々あります!)

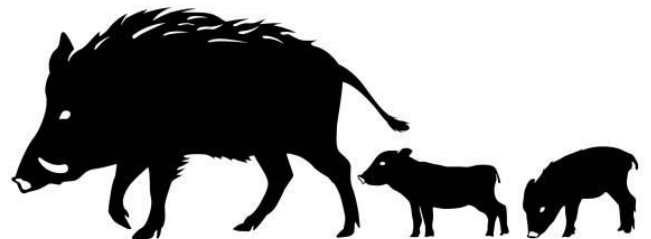
【 イノシシについて 】

イノシシは本来、臆病でおとなしい性格を持っています。

通常、イノシシが人に出会っても、イノシシの方から逃げるので慌てる必要はありませんが、下記のようなときは注意してください。

1 注意するとき

- 興奮していたりするとき
- 発情期(晩秋～冬)のとき
- 分娩後で攻撃的になっているとき
- 至近距離で突然出会ったとき



2 出会ったとき

- 静かにその場を離れるようにする。
- なるべく背中をみせないように、ゆっくり後退する。
- シュー、カッカッカッ、クチャクチャクチャという音をイノシシが発していたら、威嚇音なので注意してください!
- 攻撃したり、威嚇したりしてはいけません。

(石や棒を投げてはいけません)

3 小さいイノシシ(ウリ坊)を見かけたとき

ウリ坊の後ろには、必ず大きな親イノシシがいることを忘れずに。

また、可愛いからと食べ物を与えることはしないでください。

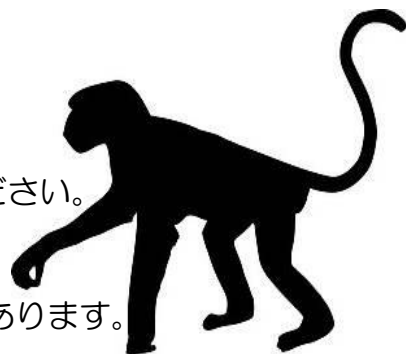
人への警戒心を低下させ、人が食べ物の供給源だと学習させることに繋がります。

参考文献：福岡県ホームページより

【 野生の猿について 】

町や住宅地に出没した猿は、移動中の場合が多いようです。人が構わなければ、数時間でどこかへ移動してしまいます。なので、構わず見過ごして、身の安全を確保してください。もし、住宅地で猿を見かけたら、危険を避けるために下記のような時は注意してください。

- 1 見かけても近づかない
不意に近づくと襲われることがあります。
特に、幼児などの小さい子がいるときは注意してください。
- 2 見つめない
目を見つめると威嚇されたと思い、襲われる危険があります。
- 3 大きな声を出さない・驚かせない
猿の防衛本能を刺激しますので、絶対にやめてください。
- 4 餌を与えない
人が餌をくれることを覚えると猿がそこに居着いたりします。
また、農作物を荒らすなど地域全体に被害を引き起こす原因となります。



参考文献：宮若市ホームページより

【 野生の鹿について 】

野生の鹿は通常、人と出会わない所で生活しています。しかし、ふとした時に、野生の鹿と出会ってしまうことがあります。基本的に、野生の動物にとって我々人間は敵であるとともに、人にうつる病気にかかってしまう場合もあります。イノシシや猿についての注意事項と何ら変わりはないのですが、下記のことを北海道のホームページ時に記載してありました。ご参照ください。

- 1 触らない
鹿に限らず、野生動物は人にうつる病気にかかっている場合がありますので、死んでしまった鹿を見つけたり、弱って動けない鹿を見つけたりしても、決して触らないようにしてください。
- 2 万が一、触れてしまったとき
手洗いやうがいをしてください。野生動物やその排泄物などに触れてしまった場合は、病気の感染予防を十分に行ってください。



© diak

参考文献：北海道ホームページより